書　　評・Book Reviews

魚類学雑誌
41(1): 87-88, 1994

日本産魚類検索—全種の同定—. —中坊徹次（編）. 1993. 東海大学出版会，東京. xxxiv＋1474 pp. ISBN4-486-01250-X. ￥25,750.

中坊徹次ほか13名（藍澤正宏，青沼佳方，明仁，池田祐二，岩田明久，坂本勝一，島田和彦，瀬能　宏，波戸岡清峰，林　公義，細谷和海，山田梅芳，吉野哲夫）の著者による本書は，日本の魚類学の大きな一里塚となるであろう．本書が日本産魚類の名前を調べる際に，まさに座右の書となることは明らかである．多くの図を用いるという，画期的な手法は，検索を誰でも使えるものにした．この点は，初めて魚を同定する人に，大歓迎されることであろう．また，専門の魚類研究者にとっても，図入りの検索は自らの同定作業を確認するのに大いに助けとなる．多くの詳細な図を描くには大変な労力と時間を要するだけに，この快挙を成し遂げた本書の著者に心から敬意を表したい．

本書は四つの部分から構成されている．最初は，16ページを占める魚類概説である．概説は以下の順で簡潔に書かれている．分類体系，種・亜種・属の概念，学名，模式標本，学名についての先取権の原則と同物異名，和名，魚類の形態的特徴と分類形質，魚類の生息場所，地理的分布，魚類標本の整理と登録・管理．日本では，このような概説に標本の整理と登録・管理に関することが書かれるのは稀であった．特に，標本を公共の施設，すなわち博物館もしくは標本を保存している大学，に保存することを訴えているのは，非常に適切なことである．

一方，この概説には問題点もある．「属について」という項目で，「属は生態学的にも面白い側面を示す．同一属に含まれる各種は生息場所が，他属の種に比べて互いによく似ている．…それぞれ属によって生息場所に特徴がある．」と述べている．確かに，この説明に該当する場合も多いが，当てはまらない場合も少なくない．例えば，ハゼ科の中には同一属でも淡水に生息する種も，海水に生息する種もいる．一方，ベニカワムキ科では属間で生息場所の差を認めることはできない．

また，「和名」という項目に，「標準和名は魚種そのもの（同一種に属する個体の集団）であるが，学名は完模式標本という個体である．」という文章が出てくる．この表現は二重の意味で誤っている．まず，第1に学名の基準となる模式標本 (name-bearing types) は，完模式標本だけではない．総模式標本，後模式標本そして新模式標本も学名の基準となる．また，学名はあくまで分類群 (taxon) につけられるもので，個体につけられるものではない．後者については，「和名」という項目全体をよく読むと，編者が，学名は種につけられると述べている事がわかる．しかし，誤解をよぶ表現は避けるほうがよい．

概説は，本書の手引きとなるべき部分である．一般の読者にとってわかりやすく，誤解を生まない表現をとるべきであろう．これらの説明が再版のときに改善されることを期待したい．

第2の部分は，科の検索で，77ページに渡って書かれている．科の特徴を要領よく捉えた図が描かれていて，全体として，使いやすい検索と言えよう．しかし，すべての科の検索を作るというのは至難の業である．編者の苦心はおおむね成功しているが，成魚の検索を前提としているにもかかわらず，例外が出てくる．19ページ（通しページ）に，レプトケファルス型幼魚期を経るか，経ないか，という検索がある．これは，実際には，ほとんど意味のない検索である．また，明白な誤りもある．ネズッポ科の背鰭は2基（58ページ）とされているが，これではバケヌメリ（背鰭は1基）がネズッポ科に含まれないことになってしまう．しかし，このような誤りは，科の検索全体から見れば小さな欠陥である．扱っている魚がどの科に属すかわからない人にとって，編者の試みが大いに役立つことは論を待たない．

第3の部分が本書の眼目の種の検索である．担当した著者の名前は，それぞれの科または目などの最初のページに書かれている．図は適度に簡潔で，要点をとらえている．このような原図を大量に描くのは，気の遠くなるような作業である．図入りの検索を使ってみると，著者の努力が大きな成功に終わっていることを実感できる．

それぞれの著者は，自分が専門としている分類群ばかりを扱っているわけではないが，検索のできはよい．これは，検索を作成するときに，標本を実際に調べたからであろう．筆者は，編者および何人かの著者の原稿作成過程を知る機会に恵まれたが，まことに丁寧で，誠意のこもった仕事ぶりであった．どこかの図鑑の引き写しですますというような事はなく，標本と文献をこつこつと調べていた．しかし，それでも，これだけ大きな仕事に

なると，誤りを一掃するのは困難である．誤りは小さなものを含めるとかなりの数になる．中には図の間違いもある．編者は既に正誤表を作成しており，東海大学出版会に連絡すれば郵送してくれるとの事である（連絡先：〒151 渋谷区富ケ谷 2-28-4　東海大学出版会　川上文雄）．

第 4 の部分は分類学的付記と文献である．それぞれの分類群について，担当者が問題点を解説している．その中には，貴重な情報もかなり含まれている．研究者にとって，得るところの多い部分である．この部分を読むと，日本産魚類について，数多くの分類学的問題が残されていることがわかる．若い研究者にとっては，本書は今後の課題を明確にしてくれる指針ともなるであろう．

また，本書で行われた分類学的措置について，理由が記してあり，必要な場合には調べた標本の所在も明らかにされている．このように，標本にたどりつく事ができる記述はありがたい．本来，分類学を科学たらしめている要因の一つは，標本を保存（博物館もしくは博物館相当施設が保存機関にふさわしい）して，再現性を保証することにある．しかし，今日でも，日本ではこの事が常識となっているとは言えない．本書のように，影響力の大きい出版物で，記述の基となった標本に言及しているのは，まことに適切なことである．従来の類似の出版物では，このように徹底した方法はとられていない．編者と著者達の見識を示す行為である．なお，かなり多数の種が編者と著者達によって，研究中と書かれている．本書にそのように書いた以上，担当者の責任は軽くない．早く研究結果を論文として出版されることを望みたい．また，担当者の名前をそれぞれの分類群の先頭に書いてくれるとありがたかった．種の検索に戻れば，担当者の名前はわかるのだが，これだけ大きな本になるとページをめくるのも一仕事になる．再版のときに考慮していただきたい．

（松浦啓一　Keiichi Matsuura：〒169 東京都新宿区百人町 3-23-1　国立科学博物館動物研究部）

魚類学雑誌
41(1): 88-89, 1994

Sharks of Hawai'i: Their Biology and Cultural Significance.—Leighton Taylor. 1993. University of Hawaii Press. vii＋126 pp. ISBN 0-8248-1562-9. US$ 19.95.

著者の Leighton Taylor は現在博物館や水族館の展示やデザインのコンサルタントをしているというが，カリフォルニアのヘラザメ *Apristurus kampae* や，近年話題になったメガマウスを新科新属新種として発表した著者である．

本著は 5 章からなり，第 1 章 Basic shark biology では，サメ類の形態学的な特徴や生殖方法について述べられている．第 2 章 Sharks and Hawaiian culture ではハワイのサメに関する伝説やいわれ，サメの歯で作られた武器や刃物などが記載されている．さらに，サメとハワイの神の関わりやサメに関するハワイの諺などが 4 頁に渡って説明され，本書の特徴となっている．太平洋の島々では，島によりサメについて独自な考えや伝承があるが，本書はハワイにおけるサメの民族学的な側面を知るには良い．第 3 章 Species accounts of Hawaiian sharks ではハワイ近海産の 37 種について，ハワイの地方名や生物学的情報を述べている．ここで著者は今までにハワイから記録の無いツマジロ *Carcharhinus albimarginatus* をハワイに分布する可能性が強いとして，ハワイのサメの仲間にいれている．本章の多くの部分は Compagno (1984) からの情報であるが，ダルマザメ，ジンベエザメ，メガマウス等には新しい情報を盛り込んでスペースを割いている．第 4 章 Shark watching in Hawai'i はサメを観察するための現地の情報である．第 5 章は Shark attacks in Hawai'i で，ハワイでのサメの被害に詳しい B. H. Balazs が，ハワイの Shark attack について，詳しく記述している．この中で 1779 年から 1992 年までのハワイの詳しい被害が Register of shark attack として整理されている．Appendix として，ハワイのサメのチェックリストがあるが，ここにはツマジロ *C. albimarginatus* は含まれていない．最後にハワイの現地語の Glossary があり，サメや民具，海洋に関する単語などの短い解説がある．

サメに関する著書はその内容が似通ったものが多く，本書の内容も大部分は他書とかわりばえがしない．しかし，その副題にもあるように，ハワイにおけるサメの民族学的な話題とハワイのサメ被害や現地の情報は他書に代えがたいものがある．本書には珍しい 100 cm 以下のジンベエザメやメガマウスなど多くのカラー写真と共に，9枚のサメの原画も載せられているが，画はあまり正確ではない．

（仲谷一宏　Kazuhiro Nakaya：〒041 函館市港町 3-1-1
北海道大学水産学部水産動物学講座）

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
41(1): 89-90, 1994

□魚類相

History and Atlas of the Fishes of the Antarctic Ocean.—Richard Gordon Miller. 1993. Foresta Institute for Ocean and Mountain Studies Carson City, Nevada, USA. xx＋792 pp., 4 col. pls. ISBN 0-9634436-0-7. 南極海の地誌と南極海の魚類の研究史を扱った第1部（全体の十分の一）と，分類学的解説の第2部とに分かれている．第2部はさらに Notothenioidei, それ以外の南極海に endemic な魚種，nonendemic（主に cosmopolitan）な魚種に分けて解説してある．横長の本で扱いにくいが，種ごとの精密な図は大きく見やすい．文献も充実しており，Notothenioidei の詳しいシノニムリストがつけられている．(TS)

Coastal Fishes of South-eastern Australia.—Rudie H. Kuiter. 1993. Crawford House Press, Bathurst, Australia. xxxi＋437 pp. ISBN 1-86333-067-4. 本書は，オーストラリアのニューサウスウェールズ北部からヴィクトリア西部にかけて分布する魚類 142 科 855 種を収録している．すべての種の写真が示され，稚魚や雌雄の写真も示されている．(KM)

Freshwater Fishes of Western Indonesia and Sulawesi.—Maurice Kottelat, Anthony J. Whitten, Sri Nurani Kartikasari and Soetikno Wirjoatmodjo. 1993. Periplus Editions (HK), Jakarta, Indonesia. xxxviii＋221 pp., 84 pls. ISBN 0-945971-60-5. スマトラ，ボルネオ，ジャワ，スラウェシ4島の淡水性魚類約 1000 種を取り扱った本で，導入部と分類学的な解説の大きな二つのセクションから構成されている．科ごとに簡単な種の検索がついており，標徴形質が図示されている．プレートにはカラー写真と色彩画で 840 種が掲載されている．(MM)

Sharks and Rays of Australia.—P. R. Last and J. D. Stevens. 1994. CSIRO, Australia. ix＋513 pp., 84 pls. ISBN 0-643-05143-0. US$ 95.00. 新たに調査記録されたオーストラリア産のサメ類 180 種以上，100 種のエイ類，13 種のギンザメ類（タイトルにはないが）の軟骨魚類を分類学的に整理した大著．未記載種や分類学的に未解決な種は sp. として記載されている．専門家必携の書．(NK)

□魚類分類学・進化学

FAO Species Catalogue. Vol. 16. Groupers of the World (Family Serranidae, Subfamily Epinephelinae). An Annotated and Illustrated Catalogue of the Grouper, Rockcod, Hind, Coral Grouper and Lyretail Species Known to Date.—P. C. Heemstra and J. E. Randall. 1993. FAO Fisheries Synopsis. No. 125, Vol. 16. Rome, FAO. 382 pp. ISBN M 92-5-103125-8. サンゴ礁に生息するスズキ亜目魚類の中で，ハタ類は分類学的に問題の多いグループである．よく似た種が多く，老幼による色彩の変化も著しい．本書はこれらの問題を解決し，ハタ類を研究する者にとって大いに助けとなる．(KM)

□分類学・進化学一般

動物分類学の理論：多様性を認識する方法．—馬渡峻輔．1994．東京大学出版会，東京．viii＋233 pp. ISBN 4-13-060157-1. ¥3,399（税込）．雑誌『生体防御』に連載された原稿が下敷きになってまとめられた本．大学生以上で分類学の基礎知識を必要とする人がおもな読者層として設定されている．第1章—分類学の枠組み，第2章—伝統的な分類学の方法，第3章—自然をまとめ